

令和8年2月 教育委員会定例会（意見交換）

開催日時：令和8年2月24日（火）

テーマ：幼保小中の在り方について

【意見交換】

○教育長

現在、教育大綱が出来上がりつつあり、ご承知のように、来年度は教育振興基本計画を策定していく必要がある。そんな中で、当定例教育委員会の中で、これまで一度も議論をしてこなかったテーマがある。例えば、それぞれの学校が老朽化し、今後長寿命化を含めた大規模改修等が必要となる一方で、将来子どもたちの人口減少が容易に予測され、学校によっては、単級や複式学級等が見られる状況となっている。そうした中で、長寿命化計画については、以前の計画がそのまま有効となっており、今この長寿命化計画そのものを見直す時期に来ている。施設計画の見直しに当たっては、将来を見通して、それぞれの学校のあり方をしっかりと検討した上で、それを反映した長寿命化計画等を作成し、施設計画と整合させていく必要がある。しかしながら、先ほども申し上げたとおり、通学区域については以前に検討された経緯があるが、本市の小中学校や園のあり方等については、それ以降本格的に検討はされていない。そうしたことを踏まえて、今後どのように取り組んでいけばいいのか、大きな観点からご意見があれば頂戴したい。

○大更委員

3月議会における質問事項を見せてもらい、このテーマが大きく関わってくるだろうと思いながら、お話を伺っている。この中には、例えば、学校を統廃合するとか、義務教育学校にするとか、小中一貫校を作ってみたらどうかとか、そうしたことも含まれてくると思っている。しかし、まずはやはり、近江八幡市として、どんな学びを子どもたちに提供するのか、どんな子どもたちを育てていくのか、ということが大前提になると思う。子ども中心に考えて、小さな学校の良さはどうなのかとか、または、大きな学校で切磋琢磨しながら成長していくことについてはどうなのか、ということも大事になってくると思っている。

以前、私が学校にいた頃に、或る学校と或る学校を統合して、素晴らしい建物を建てて、最高の環境の中で子どもたちを育てていこうというような話が持ち上がったことがあった。その時には、地域に学校が無くなったら活気がどんどん無くなっていくのではないかとということで、地域や保護者の方々から歓

迎されない意見が多かったと聞いているが、やはり、統廃合によって子どもたちがどういう学びをするのかという議論が置き去りにされていたように思う。

学校の統廃合や再編成については、短い期間で論議するのは非常に難しいと思う。例えば、通学路をどうするのか、すごく遠くから通わなければならないのではないか、そうした保護者や地域の不安や反対に対して、教育委員会として、しっかりとしたビジョンが必要になってくる。そうした時に、一番大切なのが、本市として、どういう子どもたちを育てていくのかという部分だと思う。本市としても子どもの数が増えているわけではないので、今後どんどん学校規模が小さくなっていく学校もある。今すぐどうこうと言うのは難しいが、やはり、5年、10年位のスパンで、考えていかなければならない課題であると思う。

感想というか意見だけになってしまうが、教育長が議会で答弁される内容について考えれば考えるほど、非常に難しい質問を教育委員会に突き付けられているという思いがしている。

○教育長

時間の関係もあり、本日はここまでとさせていただきます。

今、委員が仰ったことは大きな提案であり、このテーマは次回に引き継ぎ、我々の議論の良いきっかけにさせていただきたいと思う。貴重なご意見を頂戴した。